

■北海道大が北海学園大に勝利。春季オープン戦最終日

北海道学生アメリカンフットボール連盟が所管する2023年春季オープン戦の最終日は7月16日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンドで1試合を行い、北海道大がRB宮崎大地（4年、兵庫・星陵高）の2TDランなどで北海学園大を17-7で退けた。オープン戦は、7月23日に北海学園大ー帯広畜産大戦を予定していたが、帯広畜産大に故障者が相次いだために中止となり、この日で全日程を終えた。

昨年の道学生選手権（秋季リーグ）で優勝した北海道大と、準優勝だった北海学園大との注目の一戦。ともに今春から先発するQB同士の顔合わせで、互いの戦力を探り合う展開となった。

試合が動いたのは第2Q残り1分からの北海道大の攻撃。自陣32ヤードからの攻撃シリーズで、QB山本康介（3年、奈良・奈良学園登美ヶ丘高）が、WRも兼ねるRB宮崎、WR田中夏暉（3年、東京・渋谷教育学園渋谷高）、WR日高耀（4年、福岡・北筑高）、WR辻和希（3年、札幌北高）に連続してパスを通し、最後はKも兼ねるWR日高の19ヤードFGで先制した。

北海道大は第3QもQB山本のパスが好調で、自陣30ヤードからの後半最初のドライブでもWR辻の連続キャッチなどで前進すると、RB宮崎の31ヤードTDランで10-0と加点。続く北海学園大の攻撃で、DB木下育（3年、大阪・大阪桐蔭高）のインターセプトでボールを得ると、同5分にRB宮崎の25ヤードTDランで17-0とリードを広げた。



北海学園大もQB篠原浩大（4年、札幌北陵高）のパスと、RB高杉武生（3年、浦河高）のランなどで前進し、第2QにはRB高杉の77ヤードランで先制TDを奪ったかに見えたが、反則で幻となった。意地を見せたのが第3Q9分。LB池原響生（3年、伊達緑丘高）が自陣でインターセプトすると、そのまま73ヤードをリターンしてTD。7-17と追いつけた。第4Q終盤にも、RB高杉のランなどで相手陣7ヤードまで攻め込んだが、第1ダウン更新まで1ヤードの攻撃を北海道大守備陣に抑え込まれた。



北海道大の降梁祐介HCは「タックルミスなど基礎的な部分の課題はあるが、攻撃チームはしっかりとドライブでTDが取れ、守備チームも実質完封できた。QB山本もパスが良く、期待通りの活躍だった」と収穫を強調。2TDのRB宮崎も「後半はOLが押してくれ、空いたところを走るだけだった。秋は全日本大学選手権で中京大と東北大に勝つのが目標。道内では大差で勝ちたい」と宣言した。一方、北海学園大の高木幸樹HCは「攻撃の完成度がまだまだ。選手集めも含め、秋に向けて完成度を上げたい」と巻き返しを決意し、インターセプトTDのLB池原は「北大戦は去年の春と秋もインターセプトしている」と自信を見せ、「秋は総合力の勝負になるので、個々のレベルを上げることが大事」と力を込めた。（広報委員 塚田博）